

インナー・ランドスケープス、トーキョー

主 催 インナー・ランドスケープス・プロジェクト・イン・ジャパン実行委員会
日 時 平成30年11月3日(金・祝)
会 場 トタン(台東区谷中)

この企画は、2009年にフィンランドの写真家マルヤ・ピリラと日本の陶芸作家ユニットの共同によりスタートしたプロジェクトの日本版です。2016年「インナー・ランドスケープス、トゥルク」の展覧会を開催した谷中エリアを中心に、東京に住む高齢者へのインタビューを行い、東京版「インナー・ランドスケープス」を行うにあたり、プロジェクトを紹介する中間報告会等を開催しました。



中間報告会会場は、谷中のトタン。
民家を改修した「ギャラリースペース」です。
(←)

この建物内にある和室空間で、「インナー・ランドスケープス、トーキョー」の中間報告会・アーティストトークが開催されました。

1階展示スペースでは、2009年にフィンランド・トゥルク市に暮らす9人の高齢者とのワークショップ(インタビュー及び撮影)を経て、二組のアーティストがそれぞれ制作した、写真《ピリラ》、陶芸作品《崔、蔵原》やプロジェクトを紹介した記事を展示。(→)(↓)



【アーティスト作品の解説】



(C)Marja Piriä / Ruth, 2011

フィンランドの写真家マルヤ・ピリラの撮影技法《カメラ・オブスキュラ》は、被写体の居室を“暗い部屋”へと変え、室内と屋外の風景が混ざり合う幻想的な光の反射の中で被写体を撮影するもの。(←)

一方、崔と蔵原はそれぞれの被写体の過去を映し出す肖像としての陶器を制作、その内側にはアルバム写真や手紙、日記など、個人の歴史の断片が転写されています。直接高齢者宅を訪問し、聞き取りした内容を作品に反映します。(↓)



(C)Satoko Sai + Tomoko Kurahara / Matti, 2011



Document-images of Eeva and Eero, Turku, Finland 2010 (C) Marja Piriä

中間報告会では、日本での高齢者へのインタビューの様子がプロジェクター画像を交えて話され、マルヤ・ピリラの撮影技法《カメラ・オブスキュラ》が室内で披露されました。(↓)



プロジェクトの様子をアーティストから直接聞くことが出来る機会に、参加者の方も興味深そうに耳を傾けていました。(→)



本プロジェクトは、2019年「日本フィンランド外交樹立100周年」の行事としてフィンランド大使館に承認されました。引き続き2020年度の展覧会実現を目指し、活動していくとのことです。2018年11月3日に開催された中間報告会は、盛況のうちに終わりました。